

現状・課題

1. 震災復興と自然災害への対応
・令和6年能登半島地震等からの復旧・復興や激甚化・頻発化する自然災害等への対応
2. 多様なニーズに応じた暮らし方・働き方のできる生活環境・雇用環境の形成
・若者の人口流出への対応や多様な価値観を受容する社会の形成
3. 多様で個性ある地域の持続的発展
・集約型都市構造への転換と半島や中山間地域等での過疎化の進行への対応
4. 自然環境との調和
・美しく豊かな自然環境等の保全や脱炭素社会に向けた対応
5. 地理的優位性を活かした産業の強化
・地理的優位性や特徴あるものづくり産業の集積を活かした競争力強化
・農林水産業の魅力向上による産業の強化と担い手確保
6. 太平洋側の災害リスクの高まりに伴う本社機能移転等への積極的な対応
・大規模災害における我が国の経済活動の持続性の確保
7. 圏域外の人との多様な関係構築と新しい交流圏の形成
・観光需要の回復・高まりへの対応と、交通ネットワークの更なる強化
・関係人口の拡大や新しい交流圏の形成

■ 能登半島地震による被災

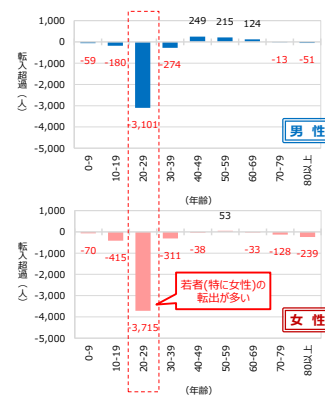


国道249号の被災状況（輪島市）

■ 三大都市圏と等距離にあり 環日本海諸国と対面する地理的優位性



■ 北陸圏の転入超過数（2024年）

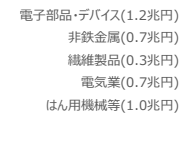


データ:住民基本台帳人口移動報告2024年（総務省）

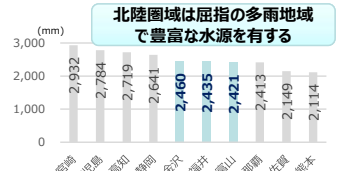
産業等の強みの客観的な把握

- ・北陸圏は、産業別修正特化係数（生産額ベース）（データ①）をみると、「電子部品・デバイス」産業等に強みを有している。
- ・また、北陸圏は北陸新幹線の開業も踏まえ、三大都市圏とのアクセス性に優れていることや、豊富な水資源を有すること（データ②）などの強みを有している。

<データ①:産業別修正特化係数（生産額ベース）※1>
（括弧内は生産額）



<データ②:県庁所在地（気象台）の年間降水量TOP10※2>



（※1）環境省、（株）価値総合研究所「地域経済循環分析（2020年試行版Ver.8.0）」より作成。産業別修正特化係数は、地域内の産業出荷額のシェアと全国の産業出荷額のシェアを比較し、貿易を考慮した係数であり、同係数が1を超えるものが全国平均よりも強みのある産業（集積している産業）といえる。
（※2）気象庁「気象統計情報」を基に、過去10年間データ（2015～2024年の10年平均値）より作成。

将来像・目標

【将来像】
住み心地・居心地よく、
多彩な魅力を活かして
躍動する北陸

目標1

北陸圏での魅力ある暮らしの実現

生活環境・雇用環境の充実と安全・安心かつ環境と調和した地域づくり

目標2

競争力のある産業の育成

競争力と魅力がある産業の形成や新たな需要を取り込む地域産業の活性化

目標3

日本海側の中枢圏域の形成

北陸圏の社会経済活動を支える信頼性の高いネットワークの形成

目標4

交流・関係人口の創出

北陸の魅力を活かした国内外との交流・関係の創出

広域連携プロジェクト

1.安全・安心な地域づくりPJ

震災等からの創造的復興による生活・生産の再建及び防災・減災、国土強靭化の一層の強化や、インフラメンテナンスの戦略的・計画的な推進

（事業例）
・令和6年能登半島地震等の被災地域におけるインフラ等の復旧の推進、強くなやかで使いやす（サステイナブルな）インフラ整備、地域インフラ群生戦略マネジメントの推進 など

2.多様性と包摂性のある地域づくりPJ

震災等からの創造的復興による暮らしと住まいの再建や、北陸圏の充実した子育て環境・居住環境などを活かした多様な価値観に応じた暮らし方・働き方が選択できる地域づくりを推進

（事業例）
・安心して出産・育児ができる環境整備や共働きを可能とする子育て支援の強化、二地帯居住・定住化・UIターン等を促進する暮らしやすさのPRの推進 など

3.デジタルを活用した地域生活圏形成PJ

北陸新幹線で接続される連接型都市圏を軸として、デジタルを徹底活用することで、都市の利便性や農山漁村のゆとりを享受できる地域生活圏の形成を推進

（事業例）
・ライドシェアサービス等による地域公共交通ネットワークのレジリエンスの推進、遠隔医療・教育などデジタル技術の社会実装の推進 など

4.北陸圏グリーン化PJ

立山・黒部や白山などの自然環境などの保全や、北陸圏の豊かな水資源を活用した水力発電などの再生可能エネルギーの導入による脱炭素化を推進
（事業例）
・北アルプス等における希少な高山植物等の保護や山岳環境の美化、脱炭素地域づくりにむけた関係機関等が連携した新たなエネルギー導入の促進 など

5.活力ある農林水産業形成PJ

震災等からの創造的復興による農林水産業の持続的な発展に向けた農山漁村の活性化や、コメや日本酒等の「北陸ブランド」の魅力を活かした産業の活性化
（事業例）
・スマート農林水産業など新技術の社会実装の推進、北陸圏の優れた食の海外展開や食をテーマとした観光による交流・観光等の強化 など

6.競争力と魅力ある地域産業形成PJ

震災等からの創造的復興による伝統工芸産業等の事業再建・継承や、北陸圏の優れた人材の育成・定着にむけた魅力的な就業機会を増やす取組を推進
（事業例）
・令和6年能登半島地震等で被災した伝統工芸産業の事業再建、起業意欲にあふれる人材育成・定着と誘致の推進 など

7.産業誘致PJ

太平洋側のバックアップ機能の確保や、三大都市圏と等距離にある地理的優位性を活かして、電子デバイス街道の形成などに向けた産業誘致を推進

（事業例）
・北陸新幹線や国際物流の拠点となる港湾、空港を活かした三大都市圏や海外からの企業の製造拠点・本社・研究開発機能や研修機能等の誘致の推進 など

8.日本海側の中枢圏域形成PJ

シームレスな拠点連接型国土の構築として、国内や対岸諸国との環日本海ネットワークの形成や、日本海型・太平洋側二面活用型国土の形成を推進
（事業例）
・敦賀港の機能強化（福井県敦賀市）
・敦賀湾の機能強化（福井県敦賀市）

9.個性豊かな観光地域づくりPJ

震災等からの創造的復興による持続可能な観光地域づくりや、北陸新幹線の開業効果を北陸圏全域に波及させるため国内外観光客の受入環境の整備等を推進
（事業例）
・令和6年能登半島地震等の被災地域における祭りや文化・風習などの再建、富山湾岸サイクリングコース等を活かしたツーリズム創出、新幹線駅からの二次交通の利便性向上 など

10.新たな交流圏形成PJ

北陸新幹線延伸、リニア中央新幹線開業などの交通ネットワークの拡充を活かし、新しい交流圏の形成を創り観光需要の拡大を促進
（事業例）
・東海・北陸道4車線化や中部縦貫道などの高規格道路等の国土幹線道路ネットワーク整備の推進、クルーズ船の誘致にむけた取組の推進 など

11.関係人口拡大PJ

北陸圏の里地・里山・里海や雪国文化などの地域の魅力を活かし、三大都市圏等からの関係人口の拡大にむけた環境形成や人材育成を推進
（事業例）
・農泊など体験型観光の造成・拡大の推進、能登地域の特性に対応した「二地帯居住モデル」の構築 など

二地帯居住のイメージ（石川県）
（事業例）
・農泊など体験型観光の造成・拡大の推進、能登地域の特性に対応した「二地帯居住モデル」の構築 など

12.隣接圏域等との連携促進PJ

北陸圏と等距離にある三大都市圏（中部圏、近畿圏、首都圏）のほか、日本海側沿岸地域と隣接する東北圏など、広域圏相互で連携した取組を推進
（事業例）
・新たなゴールデンルートや昇龍道プロジェクト等による広域観光ルート形成の推進、東海・北陸・中国・四国・九州等による産業連携の推進、ドクターへの圏域間相互応援運行 など

13.震災からの創造的復興PJ

震災等からの創造的復興を実現するために必要な横断的な広域連携プロジェクトとして、暮らし、産業、交流など多様な取組を推進
（事業例）
・国土幹線道路ネットワークの強化や港湾・空港等の防災拠点としての機能強化、広域的な防災・危機管理体制など圏域間の相互連携の強化 など



※本地図は我が国の領土を網羅的に記したものではありません。
※高規格道路ネットワーク図については令和7年4月1日時点の情報。
また、首都圏、中部圏、近畿圏については、一部の路線を图示していません。